

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470301017		
法人名	鈴鹿インター株式会社		
事業所名	さつきの里 グループホーム		
所在地	三重県鈴鹿市伊船町字北ノ上割2020-3		
自己評価作成日	令和6年2月6日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=2470301017-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和6年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者・職員が共に笑顔で過ごせるよう安全に不安なく生活できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

昨年、開設20周年を迎えた「さつきの里グループホーム」は、「一人ひとりの想いを大切にし健やかな生活を願いそっと寄り添える支援をする」という理念に基づいて、施設長、管理者、職員が丸となって利用者の幸せを願い、きめ細やかな支援を実践している施設である。特に食事への配慮は見事で、一人ひとりを十分理解しないとできない支援をしている。手作りの食事で作る刻みの音や匂いは利用者の感性を刺激し、おいしく楽しく食べていただけるように十分な工夫がされている。また職員は勤務日以外にもボランティアで外出支援を行っている。管理者は自ら自分が他の職員と同じ業務をこなし、その考え方や姿勢を見てもらうことで、次世代が育つ環境を整えたいと努力されている。利用者のみでなく、職員も元気に働き幸福感が持てるようにしたいとの思いがあふれている、明るくあたたかな施設である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に見えるところに掲示し、常に共有でき、実践につながるようにしている。	5年前に理念を見直し、管理者自身が現場で働く姿を示そうと、一番大事にしている「一人ひとりの想いを大切に、健やかな生活を願い、そっと寄り添う支援をする」を理念として掲げ実践している。分かりやすく誰にでも伝わる暖かい表現となっており職員全員に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和5年10月地域の方・子供園園児を招き交流会を開催した。	コロナが解除になってから、保育園のイベントに参加した。いち早く面会も再開し、今後ボランティアによる手品等も企画。外出時には日頃から利用条件の良い食事場所やスーパーなどに協力依頼をし、交流している。20周年イベントも家族や地域の方々も参加され大盛況であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和5年から中学生職場体験や推進会議を行い、認知症への理解や支援方法を理解してもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では近況報告をしっかりと行い、利用者の様子も見ていただき、ご意見があれば参考にし職員会議で話し合っている。	何より現場優先で最初から固定日で開催することが難しかったができる限り調整し、利用者の様子を報告するとともに意見を実際のサービスに活かせるように職員会議でも話し合っている。	職員会議等で日常的に十分話し合われているが、運営推進会議を定期的に位置づけて意見交換をすることが基本となる。今後、固定日を決めた上で職員配置等を工夫し、開催できるようになる事に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か困りごと・疑問があればいつでも相談させていただいている。	地域包括支援センター職員とは顔なじみでいつも相談や質問があれば気軽に応じていただける。最近の困りごとで本人を含む親族との不具合が生じ、ホームにも影響を及ぼすことが続き対応に苦慮しており職員の負担も大きい。そのため施設長が直接対応し、広域連合にも相談、解決策を模索している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアの理解するため3か月に1回の身体拘束・虐待適正化に関する委員会を開催し、研修も定期的に行っている。	各種BCPを早くから整備し、虐待防止・身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催し、正しい知識を得るとともに研修も行い内容も充実してきた。社内研修報告書も毎回作成している。夜間徘徊で大変な方に対し、医師の薬の処方が必要としたが、ドラックロックになっていないかと家族やみんなで真剣に悩み協議した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行い、施設長・管理者・ケアマネが中心となり、業務が観察できる所にいるように心がけ、虐待防止できるように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に必ず不安・疑問点などは聞いている。施設のサービス・ケアの理解していただくよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望を言いやすい環境作りを心掛け、専門医受診の際には家族の要望・時間に合わせて送迎を行っている。相談員訪問もしてもらっている。	家族の面会も多く意見に対して話しやすく、聴き取りやすい環境を整えている。外部から相談員にも訪問してもらっている。家族への面会ノートに会話の内容や意見を記入し、職員全員が確認した上で随時検討している。急ぎその場で対応した場合も、その内容を具体的に記入してきめ細やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員意見・職場環境整備・物品購入・修繕など常に施設長・事務長・管理者に言える環境がある。	施設長面接を行い人事考課について管理者からも職員の業務に対する向上心や技術・能力等について優れた点をアピールし、評価をしてもらうようにしている。運営に対する職員からの意見があれば取り上げ、年間の行事計画等に反映できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与前に人事評価表で評価し賞与に反映している。施設長個人面談もあり、要望・希望等がいえる環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務状態は常に把握できている。その場での指導も積極的に行っている。研修も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策の為、行えていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく本人から数多くの事が聞き取りできるように、コミュニケーションを大切に様子確認しながら行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には、家族との会話できる時間をなるべく多く設け、利用者の報告も行い不安・要望等がいえるように務めいい関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に必要な支援が出来るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し・たたみ・掃除・食器拭き等、利用者に協力していただきながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべく面会できるよう支援している。面会していただき、日頃の様子を見ていただき、家族の協力していただき生活を支える支援を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の知人からの手紙など返事が書けない時は、関係が切れないよう管理者が変わってお返事を書いている。面会で近所の方とお話しされたりしている。	近隣に住む俳句仲間が今も手紙を下さるため返事を書くお手伝いをしている。面会にも来ていただいたことがあり関係が途切れないように、その都度話をして思い出を想起できるように支援している。また携帯で孫の写真を見てもらい会話を弾ませるように努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を把握し席などを工夫し孤独にはならないようにし、トラブルになる前に職員が間に入って対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時には、ご挨拶時に一言添えるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を伺うため、日頃の観察を意識し一人ひとりなるべく自由に過ごせるよう配慮し、寿司が食べたい時は寿司を注文したりもしている。外に行きたい方には職員付き添いで行くこともある。	判断能力のあるなしに関わらず、理念に基づいて一人ひとりにそっと寄り添える支援を心がけている。言葉のない方に対して長年支援してきた中で思いを少し察しられるようになってきた。日の浅い方の意思確認はまだ分からないこともあるが状態の把握に努めできる限り理解しようと努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報はアセスメント、個別ファイルに整理して、職員がいつでも見られるように管理している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックから心身・身体 のチェックも行っている。体調により申 し送りで一日気を付ける事を共有し安心 して過ごせるよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回職員会議・サービス担当者会議・カンファレンス・モニタリングで意見出し合い、計画作成している。計画作成には家族から聞いた要望も取り入れている。	業務は職員全員が兼務し、ホームでできる最大限のケアについて、月1回の職員会議及びサービス担当者会議等で個々のケアについて話し合い、家族からの意見も取り入れ計画作成をしている。モニタリングで見直された内容もすぐ計画に反映し、本人の普通の日常を支援できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・職員申し送りノート・申し送りで情報共有・把握し、実践や計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族時間都合に合わせた通院送迎や外出日和など希望があれば予定なしのドライブに行ったりもしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の神社に行ったり、子供園祭り参加・外食等を楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の希望を聞いている。施設では月2回24時間救急対応していただいている。専門病院での受診の際には情報共有している。	家族のみの通院が難しい方も施設で送迎し、希望の医療機関が受診できるようにしている。近隣の協力医の往診で24時間救急対応も可能で、看取り支援にも創立時から力を入れている。医療処置もデイの看護師に依頼でき、訪問歯科も必要時往診してくれる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師はいないが、併設しているデイサービス看護師とは応援要請は出来ている。月2回の往診のかかりつけ医にはいつでも相談でき指示してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	安心して治療できるよう病院とは速やかに情報共有するようにしている。入院中は家族・病院との相談や状態把握等の連絡はしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも、重度化のための指針をもとに話はしている。終末期に入る前に必ず家族には話し合い・意向は聞き、家族・かかりつけ医・施設で同意書交わし連携しながら取り組んでいる。	看取り経験から、本人がどのような終末期を過ごしたいかを察しながら支援している。家族には契約時、指針に沿って説明するが、実際はその段階になったときに医師及び家族と十分話し合い同意してもらう。最後は家族にホームに宿泊し、自由に付き添ってもらったりなるべく悔いが残らないようにと支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員は消防学校での1日講習を受講している。かかりつけ医指示や、経験豊富な職員からの学ぶ機会もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中には近隣に同会社倉庫があり応援体制がある。訓練もあり滑り台も不具合がないか職員が滑り確認している。BCPを作成し、それを参考に訓練の予定している。	年2回の消防訓練を実施し、今後緊急連絡網での訓練も職員の住宅状況・距離なども確認した上でBCPをブラッシュアップしていく。またLINEによる連絡網及び発電機も最新のものを検討中。備蓄品は敷地内のコンテナに充実して備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の行動の制限をするような言葉かけなどはせず、自由に行動できるような支援を心掛けている。	大きな声で呼びかけたり意に反した誘導、行動を制止すること等はしないと心がけプライドを尊重すること及び職員も五感に敏感になれるようにしている。食事にこだわり手作りを基本としているのは、食べ方はその人の最大の表現が出ると考え、個々に注意深く観察し、支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の何気ない会話から思い・希望を聞くことを心掛けている。おやつなど種類があるものには選んでいただいたりしている。レクレーション・歩行タイム等の参加も本人に決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一部の利用者は就寝時間などは決まっていない、本人の好きな時間に就寝してもらっている。お手伝いやレク参加もご本人の希望にそっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる利用者は自由に着ている。髪の毛カットも本人希望や入居前の髪型を参考にその方に合った髪型を意識してカットするよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやし根切り・お茶詰め、食器・お盆拭き等、一緒にしていただいている。	お茶詰めや食器・お盆拭きなどの役割を職員と一緒にしてもらおう。食事が摂りにくい方へは家族に協力してもらい居室で一緒に好きなものを工夫して食べていただく。嚥下の難しい方の刻みはすべて包丁で細かくし、とろみのつけ方も職員が味見してちょうどおいしく食べられる濃度になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	味付け・メニューの変更・形状状態も個別に提供したりしている。食べない時には栄養ドリンクなども用意しており水分・食事量も1日通して管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯洗浄・歯磨き介助・口腔ケアも行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かし、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿失禁がある方でもなるべく布パンツで過ごしたり、夜間のみリハパンやパットを使ったりし、個々の排尿時間間隔をつかむ努力して職員間で共有し失禁を減らすよう日々心掛けている。	以前の排泄時の習慣や羞恥心に気を配りズボンの脱ぎ方にも気を付けている。排尿時間のリズムをつかみ失禁が軽減できるように情報共有をし、昼間なるべく布パンツで過ごせるようにし、夜間はリハパンに変えてもセンサーで感知してトイレ誘導したり、ポータブルトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医に指示もらい服薬しているが、服薬せず出せるよう水分量やおやつなどに工夫し排便促すようにしている。運動もしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は基本午前中と決まっているが、ゆっくり入ってもらえるため、午後から入ってもらう方もいる。安全確保のため職員2名で介助も行っている。	全身状態を観察できる時間でもあるがまず第一に安全に入浴を楽しんでもらえるように、2人体制でゆっくり声掛けしながら支援している。美容師資格を持っている管理者が全員のカットや刺激をなるべく減らしたお湯シャンプーを心がけ、洗身も赤ちゃん用ガーゼを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に居室に行かれ寝ることもあり、ソファでウトウトしている方もいる。夜間は自由に居室も行かれ好きな時間に休んでもらえる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りノートに月2回の往診結果を記入、職員全員して把握している。ぬり薬は管理表があり、塗布の場所・薬の把握をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出したい方が多く気分転換にはドライブ支援したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	子供園祭り・ドライブ・外食・神社・花見・庭の散歩など、季節に合わせて月行事の時に外出している。	近隣のスーパーや喫茶店、コンビニ、バーガーショップ等に出かけ、社会の刺激ももらい、普通の生活に近づけられるように工夫している。職員同志もボランティアとして助け合いながら外出支援を行い、家族との墓参りを手助けし、季節行事、外食も担当者が楽しい企画を提案して地域とも連携し、外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる金額を持っている利用者もいるが、基本は施設がお小遣い管理をしている。本人希望があれば使ってもらえる支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話されている。手紙の返事が書けない方には管理者が代筆に返事返している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除専門職員がいて、掃除はきれいに行われている。利用者の要望でブラインド閉めたり光の調整も行っている。	共有空間は広く開放感があり、庭や外の景色が見渡せゆったりと過ごせる場所であり、夜勤者は各部屋の入り口がその場で確認できるので動きやすく支援しやすい環境である。利用者は思い思いの場所で居心地よく過ごせ、壁面は季節のオーナメントや手作り作品等で飾り、明るく季節感にあふれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファが多く好きな時に座れる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく使い慣れたものを持ってきていただけるようお願いしている。冷蔵庫・テレビなどもあり居室でくつろいでいる。	本人の使い慣れたものは居室に持ってきていただき、思い思いに配置し、ストレスなく過ごしてもらえるようにしている。夫婦で利用されている方も1室は寝室、もう1室はリビングとして自由に使用してもらえる。今後は夏場の停電時の対策も検討していく。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの広いフロア廊下で、安全に自力でトイレで排泄しやすいように支援出来ている		